

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

平川市長 長尾 忠行

市町村名 (市町村コード)	平川市 (22101)
地域名 (地域内農業集落名)	平賀⑥ (唐竹)
協議の結果を取りまとめた年月日	(第1回) 令和6年2月9日

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

- ・高齢化が進んでいるが、約半数は後継者を確保できている。
- ・平場が地区内に少なく、生産条件が厳しい傾斜地が多い。
- ・高齢化等により労働力が不足している。
- ・山手の傾斜地は条件が厳しいため、リタイアする人がいても代わりに作る人がいなく、伐採せざるを得ない。

(2) 地域における農業の将来の在り方

傾斜地等の条件の悪い農地は保全エリアとし、平場の条件のいい農地に地区の主力作物であるりんごを集約する。

共同防除組織が多数あるが、中には受託面積が3町歩のみの組織がある。高齢化が進み、各組織の人数が減少してきているため、合併などにより地区内の農地を維持する方法を模索する。

また、高齢農家が規模縮小や離農する場合に、労働力として地区内での農作業を請負うことができるようなシステムを構築する。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	312 ha
------------	--------

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方

作業効率の悪い傾斜地を保全エリアとし、平場の農用地でりんごの生産を図る。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1) 農用地の集積、集約化の方針
桑田久毅、谷口秀樹、内山陽介が中心となり農地を拡大・維持する。
(2) 農地中間管理機構の活用方針
地域内で中間管理機構の活用を推進しているため、今後も農業委員等が中心となり集積・集約化を進める。
(3) 基盤整備事業への取組方針
(4) 多様な経営体の確保・育成の取組方針
リーダー研修の実施により、30代・40代の後継者を育成していくとともに、企業の農業参入を推進する。
(5) 農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針

以下任意記載事項（地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください）

<input type="checkbox"/>	①鳥獣被害防止対策	<input type="checkbox"/>	②有機・減農薬・減肥料	<input type="checkbox"/>	③スマート農業	<input type="checkbox"/>	④畑地化・輸出等	<input type="checkbox"/>	⑤果樹等
<input type="checkbox"/>	⑥燃料・資源作物等	<input type="checkbox"/>	⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/>	⑧農業用施設	<input type="checkbox"/>	⑨耕畜連携等	<input type="checkbox"/>	⑩その他
【選択した上記の取組方針】									